

愛を表現するために

ホープ・チャペル所沢
第一コリント人への手紙 14:1-12

「私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいますが、それよりも、あなたがたが預言することを望みます。もし異言を話す者がその解き明かしをして教会の徳を高めるのでないなら、異言を語る者よりも、預言する者のほうがまさっています。」

(第一コリント14:5、新改訳)

序文

パウロがここで教えている聖霊の賜物の用い方について考えて頂くにあたり、皆さんに2つのことを参考にして頂ければと思います。まず1つ目に、パウロは教会をキリストの助け手として考えました(創世記2:18-25、エペソ2:8-10、5:22-33 参考)。2つ目に、聖霊の賜物が与えられ、愛を持って賜物を用いる事が出来る人々には、単に人々の前でおこなって見せたり、奉仕するよりも、人々を整え、励ます役目があるとパウロは考えました(エペソ4:11-16)。ですから、皆さんも愛を追い求めると同時に、聖霊の賜物も熱心に求め、用いていくことを忘れないようにしましょう。

1. 愛を追い求め、聖霊の賜物を熱心に求めなさい。(1-4 節)

ア) 愛にとどまることは神様にとどまることであり、神様を追い求めることは愛を追い求めることです。

イ) 全力を尽くして人々を愛するのではなく、神様が備えて下さる力によって愛すべきです。

2. 「あなたがたがみな異言を話すことを望んでいますが…」(5節)

ア) 預言は聞く人に対し直接的な励ましとなるので、パウロは預言するよう勧めました。

イ) しかしパウロは、「異言」や「異言を話す人」が劣っているとは述べていません。

3. 意義深い発言と係わり合い、そして聖霊様の現れについて。(6-12節)

ア) 神様のことばを、人々に分かるように伝えるための私たちの責任とは何ですか。

イ) 「教会の徳を高めることを熱心に求めなさい。」

結論

霊的な賜物は、個々の信者の価値とは無関係です。それらは、私たちが隣人を愛するため、また互いの良い働きを認め合うために、神様が私たちに与えて下さっているものなのです。

私たちの祈りと学び、話し合いと応用のために：

- 1) 1-4 節を読みましょう。なぜパウロは、異言を話すことよりも預言することの方を勧めているのでしょうか。
- 2) パウロは5 節で、発言する人とその発言の重要性についてどのように言っていますか。
- 3) 12 節を読みましょう。教会の中で、どのように聖霊様はあなたを通して、ご自身を現されているのでしょうか。